



## 要 望 書

2022年10月18日

住友不動産株式会社  
代表取締役社長 仁島浩順 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)  
関東甲信越支部 支部長 渡邊大海  
同 保存問題委員会 委員長 太田安則  
同 世田谷地域会 代 表 柿崎豊浩



### 旧林愛作邸の保存利活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より世田谷区の地域文化に深く理解を示され、地域と手を携えて街の発展に貢献されていることに、心より敬意を表します。

さてこのほど、貴社におかれましては世田谷区駒沢1丁目1番に所在する電通八星苑（旧林愛作邸）及びその帰属する関連敷地を所有されるに至った由、聞き及んでおりますが、その後当該開発計画に着手されていることと拝察いたします。

ご高承のとおり、旧林愛作邸は米国の世界的な建築家フランク・ロイド・ライトが、日本に設計を残した建築の一つで、現存する4つの中で最初に手掛けた建築であります。

その特徴は、ライトがアメリカ中西部の草原地帯の中で確立していた住宅のスタイル、プレイリイハウス (Prairie House) を思わせるデザインを武蔵野の駒沢村（当時）の広大な自然の中に採用していること、広間部分では水平な横架材を用いず合掌を互いにもたせ掛ける扱首（さす）組みの小屋組みにすることで低く地に広がりながらも圧迫感のない船底天井を実現していること、南庭に面した隅角部と暖炉廻り以外は木造で、平屋建ての簡素で軽快な空間が開けていることなどです。

世田谷区は、区が定める「駒沢一丁目1番地区 街づくり誘導方針」の中で、この地域の開発にあたっては、近代建築史上価値の高い旧林愛作邸が重要な地域資源として扱われるよう特筆しており、その指針に沿ったまちづくりが望まれています。

近代建築遺産の消滅が危惧される今日にあって、旧林愛作邸の保存利活用は住環境のさらなる良質化につながる重要なテーマであると確信し、その前向きで積極的な利活用がはかられることを要望いたします。

なお、当協会は旧林愛作邸の保存利活用に関して、保存・改修技術、活用の事例紹介・提案など、出来る限りの協力をさせていただき所存であることを申し添えます。 敬具